

友情は感謝の心から

平塚柔道協会 会長 奥山晴治

塩澤と青木は高校が違った。塩澤は日大藤沢高校、青木は横須賀学院高校である。共に練習に忙しく、会う時間がない。二人が会う時と言えば、県の大会の時しかなかったのである。塩澤は大会の時に、いつも青木宛ての手紙を用意していた。高校3年の最後のインターハイ県予選の時であった。青木は、今でも、その時の手紙を大事にとってある。それには次のように書かれてあった。

「青木愛さんへ!! この間は手紙ありがとう! 嬉しかったよ! たぶん、これを見るのは試合が終わった後だと思うけど、結果がどうであれ、一日一日が勝負のような気がします。今更だけど・・・青木さんが柔道を誘ってくれたおかげで今の自分があると思います。遡ると、5年前かな? ありがとう! 柔道をやっていて本当に良かった。実は私、半月板がいかれて・・・引退したら手術かも。今頃、なんで自分が・・・って思ったけど、真田先生がよく言っていた。『お前が乗り越えられると思って、神様が与えてくれた試練なんだよ』っていう言葉を信じ、先生方を信じるしかないよね。とりあえず、もしもインターハイに負けたとしても悔いが残らない試合がしたいし、これのせいにしたくないので!! 自分は日本一になるぞ! お前! 時々、弱気になっちゃうけど、その時は怒って下さい。お願いします。自分もお前が弱気になったら一発・・・笑。最後だし、楽しくやりましょう」という手紙であった。

実は、この日、塩澤は仁藤と52kg級の決勝で対戦している。結果は、塩澤が優勝し、インターハイで神奈川代表になっている。この3人は、柔道で真田教師のもとで柔道に励み、時には敵となりライバルとして戦い、またある時は、悩みを打ち明けて相談し合う親友であった。高校時代も会えなければ、手紙を交換し合って交流を深めた。そして社会人として働く今でもこの関係は続いている。3人は大学を卒業する

と、青木は吉本興業に行き、塩澤は愛知県の中学校の教師になり、仁藤は全体の店長になった。仁藤が店長になった時に、青木の家で、店長になった「お祝いの会」をやったという。その時の携帯で撮った写真を見せてくれたが、おもしろい! 何故、3人の友情が長く続いているのだろうか。私が彼女らと会って感じることは、皆、感謝の心と相手を思いやる心を持っていることである。塩澤は、中学の作文の結びの部分に、「人間って、やっぱり一人じゃ生きられないし、みんながそうだと思う」と述べている。彼女は友への感謝と必要性をわかっているのだ。青木は塩澤の手紙をいまだに大事にしているのは、やはり友を大切に思っているのである。更に、仁藤の言葉には心惹かれるものがあった。それは次のような言葉であった。「私は、真田先生に出会ったばかりに、県のチャンピオンにさせて頂き、良い思いをさせてもらった。これは私でなくても、努力ができる人であれば、真田先生の指導力で、皆が同じようになれたのではないかと語っていた。彼女は常に謙虚であり、感謝の心にあふれているのであった。

感謝の心の強い人は、すがすがしい。私はそんな人を何か応援したくなる。協力したくなる魅力を感じる。感謝の心と思いやりの心を忘れなければ、3人の友情は、これからもずっと続き、より深いものとなるであろう。3人の友の人生に幸多かれんことを祈る。3人の友情がいつまでも長く続くことを願いつつ・・・。



友情に感謝、仲よし3人組
仁藤店長「お祝いの会」にて
左から青木愛・塩澤茜・仁藤愛